

欠損するが、右に切り込みが入る。(19)の表面二行目二文字目は女偏の文字である。上部右と下部が破損し、左右の二片に割れている。(23)は下部が破損している。左右に比し中央部が盛り上がり「へ」の字状を呈し、下部中央部に方形の穴があけられている。

木簡の釈読については、福井市郷土歴史博物館の足立尚計氏のご協力をいただいた。

(長谷川健二)

石川・畝田・寺中遺跡

- 1 所在地 石川県金沢市畝田西三丁目ほか
- 2 調査期間 二〇〇一年度調査 二〇〇一年(平13)五月～二月
- 3 発掘機関 (財)石川県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 浜崎悟司・岡本恭一・立原秀明・菅野美香子
- 5 遺跡の種類 集落跡(官衙関連遺跡?)
- 6 遺跡の年代 弥生時代～中世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



本遺跡は日本海を臨む犀川・大野川河口部の扇状地上に立地する、弥生時代から中世までの複合遺跡である。畝田・寺中遺跡は畝田遺跡・畝田大徳川遺跡の二遺跡と隣接し、調査では三遺跡を便宜上一体の遺跡として扱っている。今年度は三年目にあたる調査となる。

これまでの調査では、奈

良時代の旧河道、溝から木簡二点（本誌第二号）や二〇〇点以上の墨書土器が出土し、建物などの遺構は確認されないものの官衙関連遺跡の可能性が指摘されている。港湾関連遺跡として知られる戸水C遺跡、金石本町遺跡（本誌第二〇号）にも近く、両遺跡とも何らかの関係を有する遺跡であろう。

本年度調査では、弥生時代、古墳時代中～後期、奈良・平安時代鎌倉・室町時代という広範な時期における遺構が確認された。木簡を含む古代の遺物は、遺跡を南北に蛇行して流れる河跡から出土している。この河跡は一九九九年調査で「語」墨書土器を多量に出土したSD〇〇八と一連の溝で、古墳時代前期からたびたび流路を変えていたことが確認された。河跡からは奈良時代の遺物や若干の墨書土器と共に、木簡が六点出土した。また調査地の南東部分では、奈良時代と考えられる建物跡が数棟確認されている。

8 木簡の釈文・内容

- (1) 「郡」^{〔符力〕} 大野郷長□^{〔等力〕} 件□□□
- ・ 「罪科知□出火急」
- 「主政」^{〔主帳〕}
- (294)×34×4 019
- (156)×(29)×7 081

- | | | | |
|-----|-----------------|-------------|-----|
| (3) | ・ □ □ | (92)×(14)×6 | 081 |
| (4) | ・ 「幡マ連弘万呂白米一石」 | | |
| | ・ 「 『御物』 」 | 185×23×4 | 051 |
| (5) | 「人 人 人 大大」 | 444×54×14 | 065 |
| (6) | 「右大辨史田家牛加比マ宮万呂」 | 157×19×5 | 051 |

(1)はスギの板目材を用いる。冒頭に「郡□」とあることから郡符木簡と考えられる。裏面に「主政」「主帳」がそれぞれ別筆で記されており、差出人は加賀郡司、宛所は本遺跡一帯を含む加賀郡大野郷の郷長である。下半部が欠損しているが、欠損面にはキリオリ痕跡をとどめている。郡符木簡の多くが二尺であることから考えると、本木簡はほぼ中央で折られ、廃棄されたものと推測できる。記載内容については明らかでないが、裏面に「出火急」とあり、召喚を目的としたものと考えられる。長野県屋代遺跡群出土第一一四号木簡によく似た書式を持つ木簡である。

(2)はスギの板目材を用いる。右半部・下端部が欠損するが、下端部にはキリオリ痕跡が認められる。召文木簡と考えられる。第一字「追」は追加を意味する可能性がある。「追」が中央にくるとすれ

ば、歴名部分は三行書きの可能性がある。左行の「山邊志邨良」は、本遺跡出土一号木簡（本誌第二三号(1)の出挙木簡）に同姓者がみえる。

(3)は杉の柃目材を用い、上・下・右欠損。上端部にキリオリ痕跡を残す。裏に月日を記すが内容は断片で文意不明。

(4)は完存でスギの板目材を用いる。「幡マ連」は、管見の限り他の資料中に現れず、「秦部連」の別表記と考えられる。「弘」は異体字で記されている。「御物」は表面と別筆で記されており、「白米一石」の用途を示しているのではなかろうか。

(5)はヒノキの板目材を用いる。机の脚に似た加工材を用いる。「人」「大」と同字もしくは類字を連続して記しており、習書木簡として使われたものであろう。

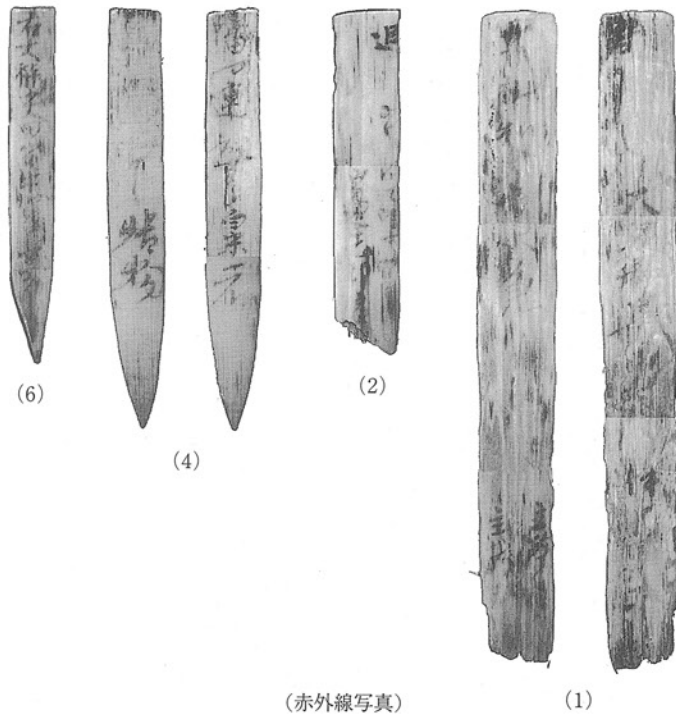
(6)は完存でスギの板目材を用いる。「右大辨史」は「右大（少史）」を指すものであろうか。本木簡は「右大辨史田家」に属する牛加比マ宮万呂が出した貢納物の付札であろう。「牛加比マ」は史料中に類例がなく、牛飼部・牛養部に音通することから、これらの別表記である可能性が高い。

木簡の釈読にあたっては、国立歴史民俗博物館の平川南氏にご指導いただいた。

9 関係文献

（財）石川県埋蔵文化財センター『石川県埋蔵文化財情報』八（二〇〇二年）

（和田龍介）



（赤外線写真）